■ 2022.11.25　No251

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E -mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

更田原子力前規制委員長
内堀知事「公の場発言を…」と求めている！

（資料１）の東電第一原発の汚染水放出の工事は、いよいよ最終段階に入り、海底トンネル出口の構造物がセットされようとしている。ここで様々な意見や問題点が浮き彫りになってきている。

宮城県知事含め反対１ﾐﾘの変化もない！

（資料２）は宮城県の汚染水放出反対の現状を示した記事である。

全国有数の漁業生産量の宮城県は、水産関係のみならず、県当局や県議会も汚染水海洋放出に反対の姿勢が鮮明である。

主要輸出国による県水産物の禁輸が続くなか原発事故の深刻な爪痕が残り汚染水放出が新たな問題として上乗せさせられることへの県民の懸念が根深いためであると言う。

自民党所属の県会議員は「県民の 11 年間の努力が踏みにじられることはあってはならない。放出反対に１ﾐﾘの変化もない」と言い、村井知事も「県民の考え方が海洋放出に反対なので、最後まで反対であることを言い続けたい」と語る。

（資料１）トンネル出口構造物がセットされようとしている

反対 1ﾐﾘも変化ない

理解と了解　処理水海洋放出

政権与党の県議が同調

宮城編㊦

（資料２）宮城県は反対一色

知事両町長が工事着工了承に衝撃を受けた

そして「処理水放出反対宮城県連絡会議」の会合後、出席者から**「処理水放出設備の工事着手を福島第一原発の立地自治体（県知事、大熊、双葉両町長）が了承したことに衝撃だった！」**との声が出ている。

それも当然であろう！県内市町村議会では放出に対し懸念や反対を決議可決した議会は 59 市町村中、大多数にのぼる。それを内堀知事と両町長は工事着手を了承したのだ。

ところが…である。

（資料３）のように更田前原子力規制委員長は「政府、東電が県民に説明を求めて来たが不信感があり限界である。トップの知事が見解を公の場で示して欲しい…」と求めて来たのだ…サーどうするかだ！

海洋放出「知事も発信を」

2022 知事選 福島のこれから

国、東電の広報に限界

（資料３）ところが福島県は？

311子ども甲状腺がん裁判
第３回 口頭弁論が行われた！

11 月９日、東京地裁で「311 子ども甲状腺がん裁判」は 3.11 過酷事故時、福島県内に居住していた６歳から 16 歳だった男女７人（追加提訴で１人増え７人になった）が損害賠償を求める裁判である。

署名２万筆で大法廷 意見陳述も増えた！

（資料４）今回も迫真の裁判であった。

約２万筆を超える署名と広く社会問題として伝わったことにより、来年３月以降、４回目の裁判では原則的に**大法廷**で行われることになった。

更に原告の意見陳述も、明年５月 15 日以降、第５回まで認められるなど大きく前進したものとなった。裁判では３名の弁護士が意見陳述や訴状の概要説明を行った。

母の心配…祖母の拝む姿に心揺さぶられた！

・井戸謙一弁護団長は前回、第２回口頭弁論で東電が示した「被告・準備書面」に反論を行った。「甲状腺等価線量 100mSv 以下でも甲状腺がんは発症する」とした内容だった。

・中野宏典弁護士は「裁判の枠組み」（判断するための基準）を過去の原爆認定訴訟や公害裁判と同様、「疫学」に基づいて行うべきと主張した。

・西念京佑弁護士は**「疫学」の専門家の意見書をもとに、原告７人が被ばくによって病気になった確率は、94 %を超えると述べた。**

最後に、原告７人中、３人目の意見陳述が行われた。息の抜けない迫真の裁判が続いた。

意 見 陳 述 〔3〕 （心を打つ陳述だったのでほぼ全文掲載しました）

私は、文章でも、言葉でも、自分が思っていることが、もともと得意ではありません。裁判を起こす前、私は、裁判は１回で終わるものと思っていました。だから提訴後に、原告が色々話し合いをして、原告全員が意見陳述しようとなったとき「正直終わったなー」と思いました。でも裁判所に２回来て、自分の辛い経験を話す、ほかの原告を見て、同じ病気になっても、みんな一人ひとり全然違う。自分もやらない訳にはいかないと思いました。内容も文章も自信はありません。弁護士さんと毎週のようにラインで話し合いをして、陳述書を作りました。この陳述書は、私がこれまで書いた中で一番長い作文です。最後まで読みたいと思います。

１．被ばく～震災のあったのは中１の時です。 その日は先輩の卒業式があり、学校の終わりも早かったので、セブンでお昼ご飯を買い、私も友達もおでんを買ったのを覚えています。丁度、食べた時にサイレンがなり、あんなに大きな地震に遭うのも初めてで、皆も大慌てで外に出ました。外は吹雪いて、この世の終わりなんだと感じました。それぞれの家族に連絡を取り終えて、ニースを見ると「震度６」という数字が目に飛び込んで来ました。津波の映像が流れてきて友達が泣いているのを見て、この状態がとても酷いことなのだと把握しました。原発事故は、叔母が放射能をとても気にしたので良く覚えています。放射能は気にする人と、気にしない人の差が激しく、私は気にしない方だったので何も変わらずノー天気に過ごしていました。被害は、どんどん状況が酷くなっていく印象でした。

２．学校生活～ 新学期が始まっても避難する生徒が何人かいて、その中に私の友だともいました。そのシュックもあり、本格的に不登校になりました。でも部活の方には顔をだしました。学校に行くのは放課後です。部活が終わっても帰らず、校門付近や公園でダベッて夜遅くまで学校にいて先生に注意されました。放射能を気にする友達が私の周りにはいなかったので普通に遊んでいました。雨が降ってもそれに当たりながら帰った。外に出る時、持って歩くようにと学校から渡された数値を測る機械も身につけず、家に放置していました。でも、叔母がとても気にしていて、いつか「身体に影響がでるなー」と感じながらも、どこか自分は大丈夫と思っていたように思います。遊びも普通に行っていました。通っていてバスで行ってたり、車で送り迎えしてもらったり、長い時間をかけて歩いて帰って来たりもしました。

３．診断～私は不登校だったので甲状腺エコー検査は受けていません。２回くらい拒否していました。

特に理由もなく、めんどうくさい、する必要はないと思っていたのだと思う。３回目くらいの通知で「これで最後」みたいなことを親から聞かされ「最後なら行くか」のノリで受けた気がします。エコーを取りおえた時、何故か「がんがあるんじゃないか」と勘が働いていました。案の定、再検査の通知が来ました。

福島医大での再検査でした細胞診の首に刺す針は最初、とても怖く感じました。痛みには強い方ですが、この時は恐怖でした。針の痛みより押されているのか、刺さっている圧なのか、見えなくてよく分かりませんでしたが、針の痛みではない痛みの方が強かったです。それを何故か２回受けた記憶があります。

その後がんと診断されました。最初のエコーの時点で癌と思っていたので、なんとも感じませんでした。でも母が泣いていたのか、ショックを受けていた。通院はとても憂鬱でした。まず医大に着くのに１時間かかり、そこから更に診察されるまで２～３時間くらい待って、待ち時間を減らしてくれないかとイライラしました。今でも病院は好きになれない。病院の空間自体が好きになれないのです。

４．手術～手術は誕生日でした。誕生日は天気が悪く雨だけだったのに、その日は晴天でした。

手術はめんどうくささや不安があり嫌だった。今も出来るなら、もうしたくはない。でも全身麻酔は経験出来た。自分の意志とは関係なく、意識がなくなる…死ぬって、こんな感じなのかなと思う。手術の傷はずいぶん大きかったけど、切り取ったものを見れなくて残念だった。退院後はまた通院。傷口を塞ぐテープを張るのが面倒で薬も飲み忘れる。傷口を治す薬は早く飲むべきだったと後悔しています。

ただ日焼けは良くないと言うことだけは聞いて対策していたと思う。「ホルモンの影響で太るから気を付けなさい」と言われていたが、ちゃんと太った。

５．再発～ 先生が「取ってしまえば大丈夫」と言うので、がんを取っちゃえば、がん患者ではなくなると思っていました。けれど、また手術することになった。再発なのか、元々取れなかったのが大きくなったのか分かりません。がんが見つかったのは成人式の次の日。この時も、特に驚かなかったけれど、母の心配した通りになった。転院した病院は小さくて、専門の病院ということもあって人が多い。福島から東京の病院に通うようになり、朝が早く、この時には、待たされても長い移動時間もどうでも良いと思っていました。２回目の手術は意識があるうちに尿管と鼻にクダを入れました。とても綺麗な看護士さんだったのを覚えています。でも鼻のクダが入らず、涙と鼻水とか、顔から出るもものは全部出た。手術より大変だった。 手術前の病室で祖母が私に向かって手を合わせた。恥ずかしい、マジやめてと思って、写真を撮りました。麻酔から覚めると、今度は点滴の針が入らず、看護士さんにすごい迷惑をかけた。2 ～３人の看護師さんが交代し、初めて、あんなに針を刺されました。申し訳ないと思った記憶。看護師さんが「ずっと謝っていたよ」と言われました。手術ではリンパを大きく切り取ったので、耳の下まで傷口がありました。でも、その時は、どんな手術か理解していなかった。傷口がなかなかふさがらず退院後に、首から体液が流れてきた時にはあせりました。急遽、福島から東京の病院に行った。手と足が硬直するようになった。気づいたのはトイレ、勝手に踵があがり起てなくなりました。これは２回目の手術が原因だと思う。病院のご飯は美味しかった気がする。手術後病室で一緒だった方と少しお話しして、ご厚意でアイスやスイーツを頂く連続でした。アイソトープ治療のことは全く覚えていません。何を思い出したらいいのか分からないくらい。ただ幼い従兄弟がいたので、ちょっと心配して、すぐ家に帰ることをちゅうちょして知り合いの紹介でお寺のお部屋を借りたのを覚えています。

６．今～ 病気が見つかってからずっと「健康検査」があるのは、県民の健康を気にしているのだなと感じていた。「ありがたいことだなー」と思っていました。国なのか県なのかは分からないけれど「へーすげーな」と思っていました。甲状腺癌が見つかる人が増えているのをニュースで見る。その 1 人になる。でも、それは「過剰診断」により見つかっただけであると流れる。では、何のために検査が行われたのか？「少しでも、ありがたいと思っていた気持ちはどうなる？」がっかりというか、残念でならない。

自分は検査２回ぐらい拒否したくせに。複雑な気持ちです。最近また再発して３回目の 手術の話がでた。嫌な気持ちもあるけれど、どちらかと言うと母親に迷惑かけてばかりなのが申し訳ない。ただでさえ薬を飲み忘れが多いのに、これからずーと飲まなければいけない。前には飲まないのが日常だったけれど、もう、飲むのは当たり前だから、それに慣れるまで、もう少しかかると思う。漠然とした不安。これから先のことも考えられない。「今とか、未来とか、実際やばい」でも、私は病気になったのが、身内や友達ではなく、自分でよかったなと思っています。友だちや家族が罹った方がつらいんじゃないかと思う。今でも友だちが心配です。

何も考えず一緒に遊んでいた子。これから、結婚とか、出産とかなっていくのに、まだ甲状腺がんになる可能性があるから、不安は除けていないんだよなーと思います。裁判官の皆さんに対しても、甲状腺がんになったのが「あなたのお子さんでなくて良かった」そう思います。裁判官の皆さんには、今もこれからも不安に思う人が 300 人以上いて、その家族達も不安に思っていることを伝えたいです。

そして、今の状況が少しでも変われればと思っています。

再開後 第69回 東電交渉
東電「二次処理実測せず…」の新聞記事に答えず！

11 月 16 日、13 時から再開後第 69 回東電交渉が行われたので報告したい。

ペデスタルの損傷には早急な対策を…！

１．「福島第一原発１号炉の原子炉圧力容器を支えるペデスタルの損傷について早期の詳細調査と緊急安全対策を求める要請書」の提出。

東電は約束違反し、その説明は反故にしている！

２．「理解と合意なき汚染水海洋放出工事の６月着工の中止などを求める要請書」に対する東電の回答に対する質疑について。

東京電力ＤＨ（株）
代表取締役社長　小早川 智明様　　2022 年 11 月 16 日

福島第一原発１号炉の原子炉圧力容器を支えるペデスタルの損傷について早期の詳細調査と緊急安全対策を求める要請書

東京電力および電力会社原子炉メーカーでつくる国際廃炉研究開発機構（IRID）が今年 5 月、水中ロボットで原子炉格納容器の内部調査したところ、本来はコンクリートで覆われているペデスタルの鉄骨がむき出しになり、その上に燃料デブリの可能性が高い核燃料由来の堆積物が見つかり、高温のデブリによってコンクリートが溶けたと見られている。

ペデスタルは原子炉圧力容器を設置する鉄筋コンクリート性の土台で、厚さ 1.2 ㍍、直径約 6 ㍍の円筒状で 440 ㌧の圧力容器を支えている。

国際廃炉研究開発機構（IRID）の 2016 年度の試算では、テベスタルの約 4 分の 1 が損傷していても耐震性に問題はないとされたが、「耐震性は果たして十分なのか」2 年続いた福島県沖地震など頻発する中、「更なる事態の悪化につながる恐れはないのか」など市民に不安を与えている。

元三菱重工で原発の耐震構造研究に関わり、実際に原発建設の現場責任者の経歴を持つ専門家は、5 月に公表された写真からペデスタル内部の原子炉圧力容器と格納容器を繋ぐ円筒計のインナースカートのコンクリートが抜け鉄筋むき出しで露出して耐震性が弱まっていると指摘し、テベスタルの支持機能が本来の 8 分の 3 程度まで低下していると試算した結果、「この状態では震度 6 強の地震に耐えられず、原子炉が倒れる可能性がある」とし、「対策と調査を同時並行的で進めるべきだ」と警鐘を鳴らしている。また、内堀福島県知事は県議会 9 月定例会で「県民に不安を与える事象が発生している。また、廃炉作業が安全、着実に実施されるよう東京電力の取り組みを確認していく」と懸念を示した。

貴社はペデスタル損傷状況と原子炉倒壊の危険性をどのように把握しているのか。

炉心倒壊の事態が発生すれば、更なる放射線被ばくの危機にさらされることから、市民の安全を確保するため、早期の詳細調査と緊急安全対策の確立が必要である。

安全性への懸念を払拭し、県民、市民に説明すべきである。

記

1. ペデスタルの損傷状態について、早期の詳細調査を行い公表すること。
2. 原子炉倒壊の危険性について、上記専門家はペデスタルの支持機能が本来の 8 分の 3 程度まで低下していると試算した結果「この状態では震度 6 強の地震に耐えられず原子炉が倒れる可能性がある」と指摘しているが、これを踏まえて、原子炉倒壊の危険性を評価し、全ての情報を開示すること。
3. 緊急安全対策について、炉心倒壊の事態が発生すれば、福島県内はもとより広範な地域が、さらなる放射線被ばくの危機にさらされることから、市民の安全を確保するため、緊急対策を早期に確立すること。　以上

福島県脱原発 12 団体

（諸団体）～海洋処分の説明会の開催について、一方的に説明するのではなくお互いに話し合う事を求めているが…。

（東電）～ 2020 年２月について多核種除去設備処理水の取扱に関する小委員会で取りまとめられた報告書に基づき同３年に検討素案を公表以降「福島県の皆様へ」で「第一原発視察を兼ねた座談会」など様々機会を捉え説明をしている。今後あらゆる機会を捉えて当社もしっかりと説明したい…以上である。

（諸団体）～「県内各地で細かく計画して欲しいとの要望がある」先日、いわき市で行った時には市民が会場費を払っている。東電が開催するべきだ。

（東電）～「県民会議」の場などで行っている。

（諸団体）～公開の場、多くの県民が入れる公開の場で話して欲しい。「県民会議」は県民全体からすれば、ごく少数であることを考えて欲しい。

関係者の定義は漁業者影響を及ぼす様々な人

（諸団体）～市民への説明は、上部と相談して欲しい。東電の主体性全く感じられない！国際社会にどう説明しているのか…そこを聞きたい！

（東電）～（従来の主張を繰り返す）

（諸団体）～平成 27 年８月に県漁業組合連合会が「…発電所内のタンクに責任を持って厳重に保管管理を行い、**漁業者、国民の理解が得られない海洋放出は絶対に行わないこと**」とする要望を出している。そして**東電社長が社印を押して「…関係者への丁寧な説明等、必要な取り組みをおこなうこととしており、こうしたプロセスや関係者の理解なしには、いかなる処分も行わず、多核種除去設備で処理した水は発電所敷地内のタンクに貯留いたします。（既報 No245）と約束している。これを放出するのは約束違反ではないか！それなら漁業者、国民に、その理由…方針を変えた…理由を説明しないといけないはずだ！**

（東電）～少しでも理解できるよう努力している。

（諸団体）～関係者の定義だが 2020 年 11 月４日、この場において「関係者とは漁業者はじめ地元自治体農林業者など影響が及ぼす様々な対象の方々を踏まえたもの」と定義している。一般市民も入るのか？

（東電）～確認させて下さい。

（諸団体）～ここがあやふやだから、ダメなのだ…海が存在する世界全体も入るはずだ！

（諸団体）～東電の方針を変えたのか？方針を変えトンネル工事を始めた。約束を反故にした！方針を変えたのに国民に説明もしない？そんなことがアリなのか？

（東電）～今後とも理解できるよう…（意味不明）

（諸団体）～先ほどの国際社会の問題だが、昨年 10 月「日中関係国際協調」を主題とするシンポジウムで中国の複数の識者から「**『海洋放出は中国人の対日印象悪化の要因だ』**として３つ挙げている。①中国は 2018 年９月から日本の説明に疑問を持ち始めた。きっかけは、処理済み水から無害とされるトリチウム以外にストロンチウムなど有害な核種が検出された…と言う東電の発表である。②最大の疑問は、通常運転中の原発から出る液体流出物とメルトダウン事故の処理水は同じと言えるのか？③東電の ALPS 多核種除去設備の処理能力が不明。情報の全面公開がない。**海洋放出に強い異論がある**」としている。国際関係も最悪になりつつある。

「ALPSの情報開示はされていない」の主張！

（東電）～（②の問題を長々と説明する）

（諸団体）～国際的にもキチンと説明してほしい。

（諸団体）～**（資料５）**の地元紙が2021年6月11日に「放出水実測せず、東電方針濃度、計算だけで判断」の記事が出ていた「二次処理は実施します」と言う主張と矛盾する。この記事は誤りなのか？

（第三種郵便物認可）

放出処理水 実測せず

東電方針 濃度、計算だけで判断

東京電力は二年後をめどに実施する福島第一原発処理水の海洋放出で、処理水に含まれる放射性物質トリチウムの濃度を基準値未満にするために海水で薄めるが、放出前に濃度を測定せず、計算だけで基準を満たしているか判断する方針だ。原子力規制委員会の会合では、有識者から「安全性を示すためにも測定してから放出するべきだ」との声もあり、今後、妥当かどうか議論する。

トリチウム濃度の国の基準は一リットル当たり六万ベクレルだが、東電は一五〇〇ベクレル未満という独自の基準を設定。処理水を海水で百倍以上に薄めて放出するとしている。

その後、タンクなどで処理水と海水を混ぜて薄めるのではなく、決定を受け東電が四月に示した計画では、処理水を分析用のタンクに入れ、トリチウムや他の放射性物質の濃度を測定する。

政府による海洋放出

（資料５）　地元紙は実測せずと…

（東電）～大きい字しか見えないが、二次処理はする。

（諸団体）～ ALPS 多核種除去設備の前・後段処理で発生する HIC（ヒック）が２年後に満杯になる。更に、第 102 回特定原子力施設・監視協議会のなかで規制庁が４つの対策を示している。それは**１、スラーリーの安定化の実現性**（ALPS から出る放射性絞り汁を脱水すること）**２．HIC 保管量のひっ迫　３．耐震性の分類　４．放射線業務従事者の被ばく管理**（遠隔操作・グローブボックスにしなければ猛烈な放射線被ばくするため）しかし、この対策が全く出来ていないからである。これは ALPS が全く機能していない現れである。更に、タンク貯蔵の汚染水の 75％が様々な核種が存在し、それを抜き去り、検査する従事者が１～２人だという。これで「二次処理出来る」など、とんでもないことだ。次回に、それが正しいかどうか議論をしたい。

（東電）～了解した。

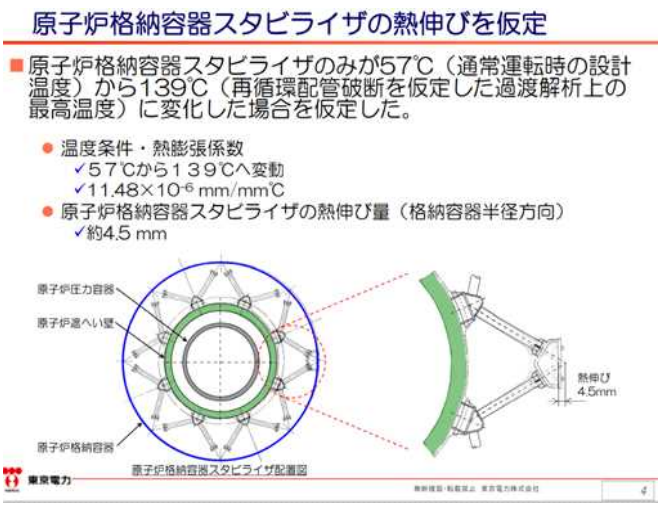
・以降取り上げられた「処理水白濁問題」「東電社員が年間何人辞めているか」「トリチウム水は何をもたらすのか」「ペダスタル問題」は割愛する。

福島第1原発　1号機　震度6強・440ガルで倒壊！
誤った東電の現状認識が再び事故を引き起こす　その3

斉藤章一

11 月 16 日に行われた東電交渉を前に森重晴雄氏から助言をいただいた。250 号と重複する部分であるが原子炉の安全上重要な指摘をされているので東電の認識と照らし紹介して問題点を共有したい。

「RPV（原子炉圧力容器）の支持機能として、水平方向に支持するスタビライザ等の構造物の支持部材により、RPV の移動（横揺れ）が拘束（制限）されています。また、RPV を鉛直方向に支持するペデスタル（基礎）には損傷が確認されている･･･中略･･･露出した鉄筋のたわみ等のペデスタル支持機能喪失を示す形跡が見られません。･･･中略･･･2016 年に国際廃炉研究開発機構が RPV 及び PCV の耐震性・影響評価を実施し･･･RPV が倒壊する可能性は低い事を確認しています」これは東京電力のホームページで述べている事である。驚くべき無責任極まる楽観論と言わざるを得ない。



（資料5）熱伸びは福島1号機ではスタビライザーを破壊

ひとつは原子炉圧力容器を上部で支えるスタビライザが健全であるかのように書かれている。しかし（資料５）を見てほしい。これは平成 22 年に柏崎 5 号機を対象に東電が新潟県にスタビライザーの熱伸びについて説明した資料である。この中で東電は事故により原子炉格納容器が 139 ℃まで上昇した場合に熱伸びによって 4.5mm、その他合計で 5.2mm 伸びるが、**耐震安全評価（5.9mm）内として安全基準をクリアしている**と評価しているのである。では第 1 原発 1 号機の事故時の原子炉格納容器の温度は何度であったかというと事故調査委員会の報告によると 500 ℃を超えている。**スタビライザの熱伸びは 24.3mm となり東電の言う耐震安全評価の 4 倍を超えているのだ。計算上破壊していると言わざるを得ない。**

「現状の検査によって健全性を確認しない限り耐評価に組み込むべきではない」と森重氏は指摘する。重大な事故可能性を秘める評価なので当然の条件である。しかも、東電はスタビライザがどうなっているのか姿さえ見ていない。（ロボットカメラにより原子炉下部の溶け落ちたデブリの一部を捉え、圧力容器の基礎コンクリートが溶けているのを撮影）破損が強く疑われるものに安全を託す、この無責任さが再び重大事故を引き起こさないか！

二つ目は 2016 年に実施したという圧力容器の基礎ペデスタルの耐震評価である。前号で記載したように、**この実験は「明白な耐震偽装」と言わざるを得ない代物である。縦長の構造物の耐震試験にもっとも重要な「曲げモーメント」への考慮を欠いているのだ。基礎部分だけの実験で全体の耐震性など評価出来まい。**

先に紹介した HP の記述には更に驚かされる。**「露出した鉄筋のたわみ等のペデスタル支持機能喪失を示す形跡が見られません」**というのだ。ズブの素人でも建屋の基礎の 3 分の 1 近いコンクリートが溶け落ちて鉄筋丸出しになったら**「全壊の評価」**を受けるだろうし鉄筋が曲がってないから地震が来ても耐えられる等とは考えない。

この感覚の組織に私たちの安全が委ねられていると思うと背筋が冷たくなる。またもや大事故を繰り返すつもりか！！

出典　文献
・（資料１）東京新聞 11/18・（資料２）福島民報 2022.11.18　・（資料３）福島民友 2022.11.18・（資料４）311 子ども甲状腺がん裁判NEWS・（資料５）福島民報 2021.6.11・（資料５）東京電力 HD